



トピックス 【冬の防災グッズについて】



冬の時期の災害は決して珍しいことではありません。阪神淡路大震災は1995年1月17日の明け方に発生したほか、2011年3月11日に発生した東日本大震災でも東北地方では寒さが残っていたということです。そこで、万一の災害のため冬の時期に備えておくことと安心なものを確認しましょう。

■ 防寒着

まずは寒さに耐えられる防寒着。ニット帽や手袋、厚手の靴下などに加え、防風性の高いウィンドブレーカーやダウンジャケットなども忘れずに。



■ カセットコンロ

カセットコンロがあれば、ライフラインが止まってもインスタント食品を温めたり、お湯を沸かしたりすることができます。



■ エマージェンシーシート（緊急時に使う極薄のブランケット）

防寒対策グッズとしてエマージェンシーシートの備えは必須です。冬の防寒といえば毛布を思い浮かべる方も多かもしれませんが、毛布は雨や水にぬれてしまうと乾かすのが大変で、持ち出すにもかさばります。エマージェンシーシートはコンパクトで持ち運びが容易な上、体に巻き付ければ体温を逃さず防寒ができる優れたものです。

■ 新聞紙

災害時に備えてあるとなにかと便利な新聞紙。羽織ったり服の中に入れておけば防寒になり、ラップと組み合わせれば簡易的な腹巻きを作することも可能です。

■ 湯たんぽ

湯たんぽはカセットコンロなどで沸かしたお湯を入れておくだけで、こたつや布団を温められる手軽な防寒グッズです。



ちよつと紹介 【最低気温が-4℃以下になるときは凍結注意】

冬の朝、水が使えなくなったら凍結かも

一旦、凍結してしまった水道は、気温が上がらなければ自然に解けることはありません。

凍結の解決には温めて溶かす方法が有効です。

タオルを巻いてぬるま湯をかけることにより徐々に水道管や蛇口を温めることができます。このとき、熱湯で急激に解凍すると配管が破損する恐れがあります。もし、凍結による配管の破損などがあった際はご一報ください。水が出なくてお湯が用意できない場合はカイロやドライヤーでも効果があります。

簡単にできる凍結対策としては、水道から少しだけ水を出しておくことです。キッチンや洗面所などにある蛇口を捻り少しだけ水を出し続けることにより、気温が下がっても凍結を防止できます。このとき、バケツなどを蛇口の下に置いて、洗濯などに再利用するなど良いでしょう。

